



こんにちは!

気象庁です!

11月号
平成21年
(2009年)



気象庁ホームページ「最新の気象データ」の利用方法

「今日はとても暖かいけど、気温はどのくらいまで上がっているのかな?」と思うことがよくあるのではないのでしょうか。そんなとき、気象庁ホームページの「最新の気象データ」のコーナーを見て頂くと、今日の最高気温をいち早く知ることができます。

全国各地で観測された最高気温のランキングや観測史上1位の更新状況などもひと目でわかりますので、是非ご活用ください。

◆「最新の気象データ」の使い方

1. 気象庁ホームページのトップページ「気象統計情報」から「最新の気象データ」をクリックします。
アドレス…<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/mdrr/index.html>
2. 「降水の状況」「風の状況」「気温の状況」「今日・昨日の全国観測値ランキング」などのメニューからご覧になりたいものをクリックします。

【最新の気象データ】トップページ

最新の統計データで見る現在の気象状況です。地点ごとの最新値は防災気象情報システム形式でご覧下さい。

【降水の状況】
1時間降水量、24時間降水量などの状況を10分ごとに更新します。

【風の状況】
日最大瞬間風速、日最大風速の状況を1時間ごとに更新します。

【気温の状況】
日最高・最低気温の状況を1時間ごとに更新します。

【雪の状況】
積雪、降雪の状況を1時間ごとに更新します。

【今日・昨日の全国観測値ランキング】
気温、降水量、風速などの全国10位までの地点がわかります。20分ごとに更新します。

【観測史上1位の値 更新状況】
最高・最低気温、降水量、最大風速などで観測史上の記録を更新した地点がわかります。10分ごとに更新します。

【気温の状況】表示例

【日最高気温の分布図】
1時間毎に更新します。

【日最高気温前日差分布図】
今日と昨日の最高気温の差がわかります。



12月の気象

●●● ~冬の雷~ ●●●

雷というと、大多数の人は夏の夕方頃にゴロゴロと鳴り出し、その後夕立が来るという情景を思い浮かべるのではないのでしょうか。現に「雷」は夏の季語ですから、太平洋側にお住まいの方は「冬に雷?」と不思議に思われるかもしれません。ところが、日本海側では冬に雷が鳴ることは珍しいことではないのです。

冬の日本海側では雷とともに雪が降ることがあります。このことから冬の雷は「雪おこし」と言われたり、ブリが獲れる時期に鳴ることから「鰯(ぶり)おこし」と呼ばれたりもします。降雪と雷が同時に起こることは世界でも珍しく、日本以外ではノルウェーの西海岸やアメリカの五大湖から東海岸にかけて見られる程度です。

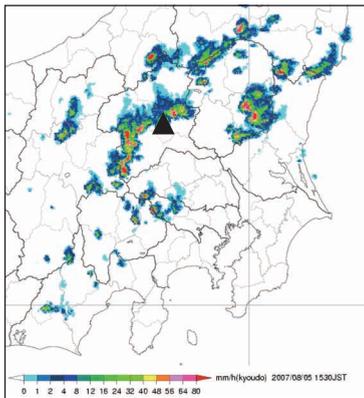


図1 2007年8月5日15:30の気象レーダー画像(▲は前橋市)

冬に日本海側で発生する雷は、気象学的には夏の晴天時にも起こる「熱雷」(*1)と呼ばれる雷の一種と考えられています。しかし、冬の雷は、夏の雷に比べて少し異なった性質を持ち合わせています。

図1は、夏に雷が発生した時の気象レーダー画像です。赤色の領域は強い雨が降っていることを表し、雷はこのような場所で発生します。実際、前橋地方気象台(前橋市)ではこの時、北東方向に雷を観測していました。この日、関東地方は太平洋高気圧に覆われ、日中よく晴れていました。強い日射により地面付近の空気が暖められて、積乱雲が発達しました。このように夏の雷は、昼過ぎから夕方、夜の初め頃にかけて起き、強い雨を伴うのが特徴です。

一方、図2は冬に雷が発生した時の気象レーダー画像です。図1のような赤色の領域は見られませんが、新潟地方気象台(新潟市)では気象台付近に雷を観測していました。一般に雪の降水強度は雨より弱いため、積乱雲が発達していても、冬季に雪を降らせるような時は、赤色の領域は現れにくいのです。冬の雷の特徴は、昼夜を問わず発生すること、雷雲の高さが夏の半分以下であること、「一発雷」(*2)が存在すること、一度雷が発生すると夏以上の電気量が流れるため落雷による被害がより大きくなることなどが挙げられます。



図2 2006年12月29日08:50の気象レーダー画像(▲は新潟市)

図3で年間の雷害の発生状況を示します。日本海側では、冬季にも雷害が多いことが読み取れます。また、太平洋側でも寒冷前線の通過に伴って冬季に雷が発生することがあります。各地の気象台では、雷の発生するおそれがある際には、季節を問わず、雷注意報を発表して広く注意を呼びかけています。気象台の発表する情報をご活用いただき、雷害を防ぐ一助となれば幸いです。

*1 日本では、①熱雷(強い日射や暖かい海面などにより大気が下面から熱されて発生する雷)、②界雷(寒冷前線など2つの性質の違う空気の境界で発生する雷)、③渦雷(台風や低気圧などに伴って発生する雷)、④その他(火山噴火や大規模火災に伴って発生する雷など)という様に、その発生原因によって雷を分類しています。
*2 一回の放電(落雷等)のみで活動が終わってしまうような雷のこと。

参考文献：気象科学事典(日本気象学会編，東京書籍，1998)、
冬季雷の科学(道本 光一郎，コロナ社，1998)

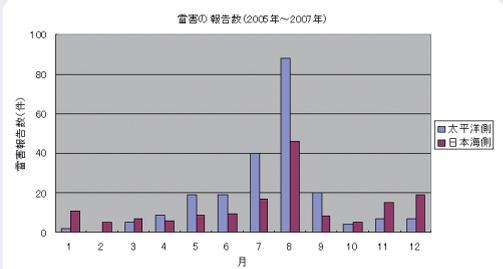


図3 雷害の報告件数(2005年~2007年)
(気象庁調べ)